

事例 22 立木のシステム販売によるアカマツの安定供給 (関東森林管理局 磐城森林管理署)



- ・ 福島県相馬市 霊山^{そうま}国有林^{りょうぜん}
- ・ システム販売箇所の様子
(令和5(2023)年12月)

磐城^{いわき}森林管理署では、スギ・ヒノキに比べて流通が少なく、また用途も異なるアカマツの人工林が多く賦存しており、建築用材としての需要創出を図ることが課題となっています。そのため、令和5(2023)年度に複数年にわたり立木を安定的に供給する立木のシステム販売の公募を行い、応募のあった事業者の中から福島県の林業事業体である株式会社アメリカ屋を選定してアカマツ等の立木 6,500 m³についてのシステム販売協定を締結しました。

同社の企画提案では、令和5(2023)年度から令和6(2024)年度の2年間で、ハウスメーカー向けに一般材 5,400 m³を供給するとともに、木質バイオマス発電施設に低質材 1,100 m³を供給する計画となっており、令和5(2023)年度には、そのうち一般材約 3,000 m³、低質材約 800 m³を供給しました。

引き続き、立木のシステム販売を通じたアカマツの需要の創出と安定供給体制の構築に取り組んでいきます。